



日本がアジア牽引して「削減」2050年にCO2を69%に

財団法人 地球・人間環境フォーラム専務理事 **平野 喬**

「アジア低炭素社会へのチャレンジ」と題するシンポジウムが10月、東京の国連大学で開かれました。環境省、国立環境研究所の主催で、日本がリードして、中国、韓国、インドなどアジアの国々で展開してきた低炭素社会づくりの5年間の成果が発表されました。

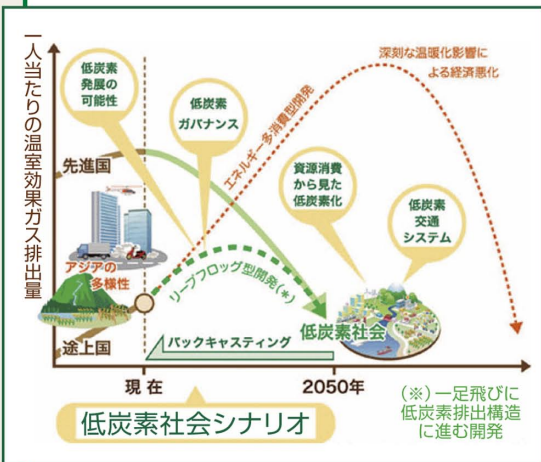
先月号で紹介しましたが、国連の気候変動政府間パネル(IPCC)は、今年の9月に出した第5次報告書で、CO2の増加により地球が温暖化していることは疑う余地がなく、その原因は人間活動による可能性が極めて高いと明言しました。IPCCは6年前の第4次報告書の時から、生きとし生けるものからなる生態系が、何とか折り合いをつけて地球上で生存して行ける気温の上昇幅は、産業革命前に比べて2度を超えないことと言っています。それ以上になってしまうと、多種多様な生き物たちの生存が難しくなり、農業の生産性も世界中で低下してしまうなど様々な悪影響が出ると警告しているのです。

そのため、この『2℃目標』は、2009年のイタリアでの主要国サミット、2010年にメキシコ・カンクンで開かれた第16回の気候変動枠組み条約でも、世界各国がこの目標に向かって取り組み、ということが共通の認識になりました。IPCCが示した道筋は、世界のCO2排出量を2015年にピークとし、以後、減少させながら、2050年には2

000年に比べCO2を50〜80%も削減しなければならぬというものです。CO2の濃度で言うと、産業革命前には280ppmだったものを、2050年には450ppm前後に抑え込む必要があります。しかし、残念なことに、今年2013年に日本など世界の観測地点でCO2濃度は400ppmを越えてしまいました。あと三十年で450ppmを超えてしまうでしょう。

高いハードル「2℃目標」

「低炭素社会」とはこの『2℃目標』を実現する社会のことなのです。大変高いハードルですが、人類の未来を左右する目標ですから、世界が一致団結して取り組みなければならぬのです。最大のCO2排出国である中国を含むアジアからは、世界の36%を占めるCO2が排出されています。アジアの発展途上国は経済発展



低炭素社会シナリオ (アジア低炭素社会研究プロジェクト提供)

の著しい国ばかりですから、このままで行くと2050年には現在の倍のCO2が排出されると見込まれています。

地球規模で『2℃目標』を実現するためには、アジアの国々が低炭素社会に向けて努力することが欠かせません。国立環境研究所を中心に、東大、京大、東工大、名古屋大、地球環境戦略研究機関など、わが国の温暖化防止対策の最前線で活躍する関係者が参加するアジア低炭素社会研究プロジェクトは、中国、インド、韓国、インドネシア、タイなど8か国、12地域の大都市を対象に、5年間にわたって低炭素社会に向けた共同研究を続けてきました。

中長期的な政策オプションの立案、予測、評価方法から人材育成。さらに交通、エネルギー、農業、土地利用、技術と資金など10の方策を提言し、それを実行した場合、なにも対策を講じなかった場合に比べ、2050年で69%もCO2を削減できるとの結論にたどり着きました。

このシンポジウムの副題には、「アジアはリニア増産(蛙とび!)で世界をリーダーシップでアジアが変わり、世界が変わる可能性を確信しました。」

一般財団法人 地球・人間環境フォーラム
環境問題に取り組む公益法人。地球環境問題の科学的調査研究を目的に1990年に設立。
国立環境研究所・地球環境研究センターの研究サポート、研究成果の普及・啓発などのほか、月刊機関誌「グローバルネット」を発行。